

14-K ヤマナシ(山梨)の巨木・栽培ナシの巨木

バラ科ナシ属

※日本のナシ属は様々な分類が提唱されている。ヤマナシ、マメナシ、ミチノクナシ、アオナシ等である。巨木分類では、天然ナシ属を「ヤマナシの巨木」とし、ヤマナシより品種改良されたナシの巨木を「栽培ナシの巨木」とする。

■主なヤマナシの巨木・栽培ナシの巨木 他の巨木位置図

●ヤマナシの巨木・栽培ナシの巨木

★アンズの巨木

◎ハナカイドウの巨木

♥オオウラジロノキの巨木

■ボケの巨木

▲ナナカマドの巨木



■ヤマナシの巨木評価基準

A 幹周おおむね4m以上の単幹樹、樹形、枝張り壮大で、実付き良好なヤマナシの巨木。

B 幹周おおむね3~4mの単幹樹、同等評価の分岐幹樹、実付き良好なヤマナシの巨木。

C B評価以下のヤマナシの巨木。

■主なヤマナシの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	片倉のナシの木 写真 Y-001	M4.36m(1.3m012)	17.5m	福島県二本松市上長折字片倉	市
B	若栗のアオナシ	4.35m	17m	長野県大町市美麻 若栗峠	市
B	頭無のヤマナシ 写真 Y-002	M4.12m(1.3m 2012)	10m	岩手県九戸郡九戸村頭無	なし
B	母狩キジ場のコブナシ 写真 Y-003	M3.93m(1.3m 2007)	15m	山形県鶴岡市長滝	市
B	鉢伏のなしのき 写真 Y-004	株周 M6.1m(0.3m 2010)	12m	富山県南砺市入会地	県
B	八谷家のヤマナシ 写真 Y-005	3.9m	17m	広島県庄原市高野町	町
B	又五郎ナシ 写真 Y-006	3.7m	16m	岩手県遠野市松崎町駒木	市
B	鹿嶋梨 写真 Y-007	3.7m	11m	秋田県横手市平鹿町	市
B	熊野宮のナシノキ 写真 Y-008	3.65m	14m	長野県下高井郡山ノ内町	町
B	稲田のヤマナシ 写真 Y-009	M3.86m(1.3m 2015)	17m	群馬県吾妻郡東吾妻町大戸	県
B	方須の梨の木 写真 Y-010	3.4m	16m	岐阜県郡上市和良町方須	市
C	庚申塚のヤマナシ 写真 Y-011	3.4m	10m	山形県新庄市萩野	なし
C	樋沢の石梨 写真 Y-012	4.52m(2分岐合計)	17m	長野県南佐久郡川上村樋沢	村
C	島貫家の大梨	4.25m(2分岐合計)	15m	山形県東置賜郡川西町洲島	なし
C	二村のナシ 写真 Y-013	3.3m	15m	岐阜県高山市清見町	村
C	愛宕神社のヤマナシ	3.0m	20m	福島県東白川郡棚倉町瀬ヶ野	町
C	松沢のナシの木	3.0m	15m	秋田県秋田市河辺	なし
B	赤羽根のイヌナシ 写真 Y-014	2.7m	16m	愛知県新城市作手高松字平田	市
C	山中湖のアオナシ 写真 Y-015	株周 4.8m	20m	山梨県南都留郡山中湖村山中	なし
C	達沢山のミチノクナシ 写真 Y-016	2.3m	10.6m	山梨県笛吹市一宮町達沢山	なし
C	西峰口番所の古木 写真 Y-017	1.8m	15m	高知県大豊町	なし
C	海ノ口牧場のヤマナシ 写真 Y-018	不明	不明	長野県南佐久郡南牧村海ノ口	なし



写真 Y-001

日本一のヤマナシ

かたくら
片倉のナシの木

枝張りが凄く、東西 24m、南北 22.5m もあり、樹勢に衰えがなく、今だに多くの実を付ける(右写真)。花は 5 月上旬で、全体が真っ白になるくらい見事で、秋の果実も沢山付ける。熟して落下した果実(右写真)は甘酸っぱい。



ヤマナシとしては異例の大きな樹冠を呈している。▶



写真 Y-002

かしらなし
頭無のヤマナシ

頭無集落の中程、中奥家の裏山に続く斜面に立つ。枝張りは東西 14m、南北 15m に及び、2011 年の秋、ここ 50 年で最も多くの果実を付けた。樹勢旺盛なヤマナシである。地上 4m の分岐部が最も太く、幹周値以上の迫力を感じる。

写真 Y-003

ほかり ぼ
母狩キジ場のコブナシ

長滝集落から林道を母狩山、金峰山登山口に向けて登ると、途中の右手藪の中に立つ。地上 3m で 5 分岐する樹形で、2 本は破損。名前は幹に小さなコブが多数ある事による。





写真 Y-004
鉢伏のなしのき

根元で2分岐する樹形だが、樹形は見事で存在感がある。



写真 Y-005
八谷家のヤマナシ
(写真・Web 画像)



写真 Y-006
又五郎ナシ
(写真・Web 画像)



写真 Y-007

かしまなし
鹿嶋梨

鹿嶋信仰の御神木として祀られる。地上1.5mで3分岐する。樹形は見事。
(写真・Web 画像)



写真 Y-008
熊野宮のナシノキ

樹種はアオナシで、リング畑の中に立つ。(写真・Web 画像)



写真 Y-009

いなだ
稲田のヤマナシ

稲荷神社境内に立つ。



写真 Y-010
方須の梨の木
(写真・Web 画像)

写真 Y-011
庚申塚のヤマナシ
(写真・Web 画像)





写真 Y-012
ひさわ いしなし
樋沢の石梨

地上1mで2分岐。畑地の農道真中に立つ。根元に馬頭観音が祀られる。



写真 Y-013
二村のナシ

(写真・Web画像)



写真 Y-014
あかぼね
赤羽根のイヌナシ

樹種は珍しいマメナシの巨木で、赤羽根老人いこいの家に移植されている。(写真・Web画像)



写真 Y-015
山中湖のアオナシ

8本の株立ちで、富士ゴルフコース近くに立つ。
(写真・Web画像)



写真 Y-016
達沢山のミチノクナシ

(写真・Web画像)



写真 Y-017
西峰口番所の古木

(写真・Web画像)



写真 Y-018
海ノ口牧場のヤマナシの木

(写真・Web画像)

■主な栽培ナシの巨木

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	月潟の類産ナシ 写真 YS-001	2.4m	3m	新潟県新潟市大別当	国



写真 YS-001
つきがた りいさんなし
月潟の類産梨

文政年間に千葉県から苗を求め、旧月潟村で育てたものの生き残っている貴重な一本。赤梨系統の一品種。(写真・Web画像)

14-L ハナカイドウ(花海棠)の巨木

バラ科リンゴ属 *Malus halliana*

※中国原産であるが、日本に渡来した時代は明確ではない。巨木になるものは稀である。巨木位置図は「ヤマナシの巨木位置図」に記載。



▲補強された主幹分岐部。

日本一のハナカイドウ ^{こうそくじ} 光則寺のカイドウ 株周 M1.50m(0.3m 2012) 樹高 5m
神奈川県鎌倉市長谷3丁目9-7 評価 B

寺の山門をくぐると、本堂右前に支柱に支えられて立つ。樹齢200年ともいわれる古木で、近年枯れ始めたため、大掛かりな樹勢回復処置が施され、何とか樹勢を保っている。主幹は0.5mで大きく2分岐していたが、この部分が腐り始め、補修材で保護されている。しかし、分岐幹も半壊状態で、極端に細くなった幹が、かろうじて支柱に支えられて倒木を免れている。しかし、花付きは意外によく、毎年美しい花を咲かせている。

14-M オオウラジロノキ(大裏白の木)の巨木

バラ科リンゴ属 *Malus tschonoskii*

※別名オオズミとも呼ばれる落葉高木で、山地に稀に生える。春にリンゴによく似た花を咲かせ、秋には小さなヤマナシのような実を付ける。黄緑色から紅色に熟して食べられる。場所によっては「ヤマナシ」とも呼ばれている事から、ヤマナシの木と誤認される事がある。巨木の報告例は少なく、「大石田のおなかなし」は別格な大きさである。又、ほとんどが山地にあり、樹種の特定が難しいため、今後巨木の報告が期待される。



花と果実

■オオウラジロノキの巨木評価基準

- A 幹周おおむね5m以上の単幹樹、同等評価のオオウラジロノキの巨木。
- B 幹周おおむね3~5mの単幹樹、同等評価のオオウラジロノキの巨木。
- C B評価以下のオオウラジロノキの巨木。

■主なオオウラジロノキの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	大石田のおなかなし 写真 OO-001	M5.15m(1.3m 2010)	15m	福島県大沼郡三島町大石田	町

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	大畑沢のオオウラジロノキ 写真 OO-002	4.3m	25m	福島県南会津郡只見町	なし
B	打杭山のオオウラジロノキ	4.15m	27m	福島県南会津郡只見町	なし
B	梁取城山のオオウラジロノキ	3.65m	20m	福島県南会津郡只見町	なし
B	肝折のオオウラジロノキ	3.65m	32m	福島県南会津郡只見町	なし
B	古城山のオオウラジロノキ 写真 OO-003	1.95m	17m	岐阜県可児市兼山町古城山	県
C	今泉神社のオオウラジロノキ 写真 OO-004	2.9m	18m	鳥取県東伯郡三朝町	町
C	粟倉のオオズミ	4.74m(分岐幹合計)	20m	静岡県富士見市粟倉 富士山麓山の村	なし



写真 OO-001

日本一のオオウラジロノキ

おおいしだ
大石田のおなかなし

「おなかなし」とは変わった名前の樹木だが、樹種はオオウラジロノキである。地元では「山梨」とか「山りんご」などともいう。「おなか」とは、共同という意味で、「皆の山梨」という意味。葉の裏面に綿毛が密生し、白く見える。春に白い花を咲かせ、秋に直径2〜3㍎程の山梨に似た小さな実をつける。実は黄色から紅色に熟し、甘酸っぱい。地元の人々は、夏の山仕事の折り、この樹下に集まってお昼をとり、下の清水でのどを潤したという。ご神木でもない広葉樹の巨木が伐採されずに残った事は実に不思議な事で、集落の人々がいかに愛着を持っていたかが伺える。

地上2.5mで4分岐し、内一本は枯れる。先端部にのみ葉が茂り、樹勢は弱っているようだ。周辺のスギが成長して日影が多くなったせいかもしれない。地上1.2mに巨大なコブがあり、主幹は苔むす。(下写真・全景)





写真 00-002
おおはたざわ
大畑沢のオオウラジロノキ
 (写真・Web 画像)



写真 00-003
こじょうざん
古城山のオオウラジロノキ
 古城山の山頂にある金山城址本丸奥
 に植えられている。(写真・原一興)



写真 00-004
いまいずみ
今泉神社のオオウラジロノキ
 境内奥の小さな社横に植えられている
 見事な巨木。(写真・三朝町教育委員会)

14-N ボケ (木瓜) の巨木

バラ科ボケ属 *Chaenomeles speciosa*

※中国原産で、日本には古く平安時代に渡来し、広く庭木として植えられている。多くの園芸品種が作り出されている。関東地方以西の山野に生えるクサボケとは別種。多くは叢生し、巨木としては巨大な株立ちになったものがある。巨木位置図は「ヤマナシの巨木位置図」に記載。



▲花期には真っ赤で巨大な花束のようになる見事な冠稲荷のボケ。

日本一のボケ

かんむりいなり
冠稲荷のボケ B 評価

株周 3m 樹高 3.5m

群馬県太田市細谷町 冠稲荷神社 (県指定)

冠稲荷神社は、新田義貞ゆかりの神社で、新田氏の祖先に当たる源義国の創建と伝えられる。太田市は新田義貞が生まれた地で、市内各地に銅像やゆかりの史跡がある。1174年(承安 4)には、源義経が京都伏見稲荷神社の御祭神を遷座したという。

本殿の前に真っ赤な花飾りのように鎮座する。根元を見ると、無数の幹の集合体で、一説に 500 本もあるという。枝張りはそれぞれ 9m あり、半球形の樹冠は実に見事。

このボケは、信仰の対象にもなっている。その昔、近くの子宝祈願をしていた夫婦が、この土地の古老に「このボケの実を食べると子供に恵まれる」と言われ、めでたく子宝に恵まれたという伝説が残されている。そのため、現在も子育て、縁結び、不老長寿の信仰の対象になっている。

14-0 ナナカマド (七竈) の巨木

バラ科ナナカマド属 *Sorbus commixta*

※日本の山地に広く分布する落葉高木であるが、ほとんどが分岐幹で株立ちになり、巨木になるものは稀である。巨木位置図は「ヤマナシの巨木位置図」に記載。



日本一のナナカマド

つるぎさん

剣山のナナカマド 評価 B

幹周 M2.2m(1.3m 2010) 樹高 8m

徳島県三好市 剣山

ナナカマドは山地に生え、赤い美しい実を垂れるように付ける樹木として知られる。真っ赤な紅葉で高山の秋を彩るのはウラジロナナカマドで、実が上を向くので区別がつく。巨木としての認識のない樹木で、山地で見ると、大きなものでも幹は腕程であろうか。

四国の剣山へアザミ属の調査に登った時に偶然発見した。標高 1800m 付近の登山道沿いにナナカマドの古木が多い事に気がついた。巨木があるのではないかと、植物調査終了後再び丹念に調べていくと、あった。

標高 1760m の登山道沿いにあり、地上 0.5m と 1.5m に細い幹が出るものの、ほぼ単幹樹である。主幹は苔むし、いったいこの地にどれ程の年月生き長らえてきたのか、想像を絶するものであった。

15, ヤナギ科の巨木 *Salicaceae*

■ヤナギ科の巨木は以下に分類する。

A シダレヤナギの巨木

B シロヤナギの巨木

C マルバヤナギ(アカメヤナギ)の巨木

D バッコヤナギの巨木

E コゴメヤナギ

F オオバヤナギの巨木

G ケショウヤナギの巨木

H ドロノキの巨木

I ポプラの巨木

※ヤナギ科の樹木は、専門家の間でも分類に様々な意見があり、分類が難しい樹木である。しかし、巨木に成長するものが少なく、報告例は上記の樹種に限られているので、本書では報告例がある巨木のみに分類する。

15-A シダレヤナギ(枝垂柳)の巨木

ヤナギ科ヤナギ属 *Salix babylonica*

※中国原産で奈良時代に朝鮮を経由して渡来したといわれる。日本全土に植栽され、人によって育てられたもので、巨木の全ては人里にある。しかし、寿命は長くなく、幹周 6m を越えるような巨大なものは報告されていない。